
宝玉!(ほうぎょく)使い

おはぎ大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宝玉（ほうぎょく）使い

【Nコード】

N8346L

【作者名】

おはぎ大好き

【あらすじ】

ここは、セイジエントと言う世界。ここは、ちょっと変わった世界……

科学、魔法 とは違う力がある。その名は……宝玉（ほうぎょく）……

その宝玉はいつからこの世界にあったのかは、誰も知らない。ただいつの間にか人々のそばにあった。

宝玉は、人の心に反応し人に力を与える。しかし、人間全員が使えるわけではなかった。

その力を使う人達を、皆は「宝玉使い」と言った……
宝玉はたちまちに暴力となり、世界で争いが起きた。だが、全部が
そうではなかった。

闇玉（やみぎよく）戦争、これは闇の宝玉を手にした一人の人間
が自らの信念のために起きた戦いだった。最初は一人の戦力だった
が、その力に魅入られし者達が集い、大きな、そして世界を支配す
ほどの力を持つていった。その組織の名を「黒の世界」。その組
織はあつという間に世界の平和を揺るがした。人々は恐怖を抱いて
いた。

しかし、そんな時に立ち上がったのが「自由な世界」と言うグル
ープだった。そのグループと世界全体のレジスタンスや国が協力し
て「黒の世界」との戦い多くの人達と一人の勇者の犠牲に終わった。
……

これは、そんな悲しい戦いが終わって八年後の世界の物語。世界
が平和になって人々は笑顔に日々を過ごしていたある日、黒い影が
再び動き出す……

第0話 再び交じり合う運命（前書き）

皆さん初めまして、おはぎ大好きです。

はじめての小説で緊張しています。

おもいつきの初心者なので、ヌルイ目で見守ってください。

第0話 再び交じり合う運命

今はアズガント暦2315年、亜紀（あき）の季の始め頃なの。

この季節は嫌いじゃないのだけど、どうも肌寒いのでいやなのよ・

・・・・ あっ！、ごめんなさいね、私はルキ。

ルキ・ローウェン、ローウェン家の一人娘なの。あゝ、貴族って言えば貴族に違いないのだけどね。

八年前に出来たばかりの貴族なのよ。八年前といと、誰もが知っている「闇玉戦争」があつた時ね。

あの時に私の父上のラキ・ローウェンが戦争で「自由の世界」の人達と一緒に戦つて、すばらしい戦果をとつたのだとか、当時十歳の私は母上と一緒に非難していたから詳しくは知らないけど・・・

???? 「ルキちゃん？ルキちゃん、何処なの？」

ルキ「ここよ、母さん！」

あ、タイミングがあつたで紹介するけど、この人が私の母のルン・ローウェンね。少し？おっとりしてるけど、しかつり物事を見ている人で、とても綺麗は人よ。

ルン「ああ、ここにいたのね。探したわよ。」

説明補足するけど、なぜかとてもいいタイミングで現れる私の中の「不思議な人ランキングNO・1」だったりします・・・我が母ながらつかめない人です。

ルキ「それで、どうしたの？」

ルン「ちょっとお買い物に行ってきたほしいの」

たまに人の意見を聞かずに、物事を決めます……………

ルキ「はあ……………分かったわ、何を買って来たらいいの？」

ルン「あのケーキ屋のケーキを買って来てほしいの　あ、種類はガルバケーキね」

ルキ「ガルバケーキ？お客様が来た時の出すケーキじゃない？
そして結構高いのだ……………」

ルン「そうよ、ラつくんから聞いたの　これからとてもスツゴイお客様が来るって」

ルキ「ふん。いいわよ。（スツゴイ？）」

ちなみに、ラつくんとは父のコトだったりする……………

ルン「なんでも戦争の時に世話になった人とか言ってたわ」

ルキ「戦争の時（まさか「自由の世界」の人じゃ……………なわけないか）……………」

分かったわ。それじゃ行って来ます。」

ルン「ええ、お願いね」

……………数十分後……………

店員「まいどありがとうございます。」

ルキ「ええ、ありがとう。」

これでよしと・・・今私は母上からの頼みであのケーキ屋のケーキを買ったところで、今から帰ろうとしているわ。あ、説明し忘れてたけど私たちが暮らしているこの町はランバルドと言って八角形の城壁に囲まれた町なのよ。結構高い城壁に囲まれていて魔物に襲われたことが無いのと言う。ま、真実は分からないけど、いい町である。道ばたを歩けば人のにぎわいでいっぱい笑顔があふれている。けど、戦争時はとてもひどかったとか・・・。ここまで平和になったのは「自由の世界」と皆のおかげである。私は会った事がないけど、とても正義感あふてたい人達だと思うわ。戦争時は非難で城下町に逃げていたのよね・・・あ・・・思い出した・・・嫌な事を思い出したわ。

ええ、あれは八年前の戦争の時・・・私と母は城下町に非難して町をウロウロしていた時だったわね。その時は私は十歳だったから不安で仕方なかったと思う。不安がイッパイで落ち着けなかった。それで、ボーと歩いていたら男の子にぶつかった・・・

ルキ「あ。ご、ごめんなさい・・・」

私はすぐに謝ったわ。でも、あの子は・・・（怒）

男の子「前を向いて足で歩け」

それだけ。それだけ言って歩いて行った・・・何なのよ！！確かにぶつかった私が悪いと思うけど、あの言い方は酷いじゃない！！！！

あゝ、思い出しただけで顔が熱い！！きつとまだ許せないのよ・・・！！！！

ま、まあ、その子のおかげで少しはマシになったのだけど……
か、感謝なんて、してないからね!! 本当よ!!……

……早く帰ろう……

と前を向いた時だった。

ゴン!!!

ルキ「あ、いた!!!」

ぶつかったのだ。どこのマンガよ!!! 考え事をしていた人にぶつかるのなんて!!!

あゝ!!! 恥かしい!!! でもケーキは無事だった。そこは良かったわ……

あ、謝らないと……

ルキ「ごめんなさい、少し考え……事……して……い……て……」

ぶつかった人を見るとあの時ぶつかった男の子に似ていたのだ……
……そして……

???「前をむいて足で歩け」

そう、まるで八年前と同じ……これは運命なのだろうか……

ここから、私の物語が始まった……

第0話 再び交じり合う運命（後書き）

いやゝ緊張しました。

やっとプロローグ完成？です。

汗だくですよチ・・・・・・・・

まあ、これからじょじょに慣れていこうかと思います・・・・・・・・

では、次回

再び出会った二人。その時突然、門のほうで爆発が・・・・・・・・

どうぞご期待ください

第1話 八年前の亡霊（前書き）

はぁ・・・・・・・・・・・・・・・・

いきおいで始めてしまった小説です・・・・・・・・

いつまで続くか心配ですが、頑張っていこうとおもいます

では、本編をどうぞ

第1話 八年前の亡霊

今私の目の前に信じれない光景が見えています．．．．．
あの子だ、ぜったいそうだ。見間違える事が出来ない黒髪に黒の瞳．
．．．．．そして．．．

八年前と変わっていないどこか儚げな雰囲気、あの時の男の子だ。
でも、変わっているところもある。それは、一番気になるのが顔の、
いや右目に入っている一筋の傷。

額から頬の真ん中まである一本の縦傷、少し幼さが残る可愛いよう
な綺麗なような顔にある傷．．．

なんか、この傷を付けた奴を無性に殴りたい．．．．こんな人の
顔に傷を付けるなんて．．．．．

一生残ったらどうするのよ．．．．．はっ！！

な、なんで怒っているのよ私！？べ、別に深い意味は無いのよ、絶
対そうよ！！年下なんか眼中にないわ！！．．．．ん？年下
？？八年前は私と同じくらい背だけだったら、今同じの十八歳
なんじゃないのかしら．．．．はっ！！だから、なんでこの子の
年なんか気にしてるのよ私！！？

確かに同じ十八歳なら背は低いほうだけど．．．．あゝ！！なん
でこんなに気になってるのよ！！？

ま、まあいいわ．．．．兎に角、まずは話をしないと．．．．．

ルキ「つて、いない！！？」

いつの間に．．．．．？いや、私が一人で考え込んでいたからか．
．．．．．

あゝもゝ、せつかくのチャンスだったのに！！．．．．ん？チ
ヤンス？？なんで？？

- - - - - ? ? ? - - - - -

さっきの女の人、いったいなんだっただろう？僕の顔を見てかたまつて・・・

まあ、いいか・・・今は戦友に会うのが先だな・・・

でも、さっきの女に人・・・何かひっかかるな・・・

ドーーーーーッ！！！！！！！！！！

???「!!」

爆発！？門の方からか！？

・・・仕方ない、行くか・・・

- - - - - ルキ - - - - -

さっきの人から別れていったん家に帰っている。探しても見つからなかったのだから仕方ないわ。

そう思つて歩いていると・・・

ドーーーーーッ！！！！！！！！！！

ルキ「!？」

爆発！？何かあったのかしら？・・・急いだそうがよさそうね・・・

- - - - - 門前 - - - - -

「??? あははははは!!!! 最高だぜ!!!!!!」

何あの男!? デカイ!!!! しかも、右手は見た事も無い武器を装備している.....

あの武器で門を壊したのかしら? あの両腕は義手かしら、でもあんな大きい義手なんて..... しかも、その先端には船のイカリ見たいなデカイモノがある.....!? あのイカリの中央にあるのって、まさか宝玉!?

ルキ「やめなさい!!!!」

「??? あ? なんだ女、この俺様にケンカうるのか?」

ルキ「いきなりケンカうつてきてるのは貴方じゃなつかしら?」

「??? はっはっは!!!! 確かにそうだな!!!! 俺がうつてるな!!!!!!」

何コイツ..... 素人じゃない..... 戦いを経験して来た者の眼だ.....

「??? おう? どうした? 恐いのか?」

ルキ「っ!!!! 誰が.....」

一般兵「そこまでだ!!!!!! 大人しく武器を捨てて投降しろ!!」

「!!」

「!!一般兵!!ダメ!!」

ルキ「いけない逃げ」「ごちゃごちゃと」・・・!」?

???「しゃしゃり出て来るんじゃない!」

ドン!!!!

!?!イカリが飛んで・・・

一般兵「ぎゅあああああ!!!!!!」

???「俺様の邪魔するんじゃない!」

ルキ「っ!!」

あの距離から一発で数人をいつぺんに・・・

ルキ「あなた、いつたい何者なの!」

???「お!!いいね、その質問をまっていたぜ!!!!」

ルキ「何笑って・・・」

ガンサ「俺は「黒の世界」のガンサ様だ!!!!」

え・・・い、今なんて・・・「黒の世界」・・・?
八年前のあの?

ルキ「嘘よ．．．．．」

ガンサ「あ？」

ルキ「嘘よ！！だって「黒の世界」は．．．．．」

ガンサ「ああ、そうさ。俺ら「黒の世界」は八年前に倒された．．．
だか！！俺達は蘇った！」

そ、そんな．．．あの悪夢がまた、始まるの．．．．．
世界が恐怖でいっぱいだったあの時に．．．．．

ガンサ「とりあえず．．．．．」

！！？え！？何時の間に目の前に．．．．．！！マズイ！！！！

ガンサ「死ね！！！」

イカリが残っていた方の腕を振り上げて、そして．．．．．
．．．

ブン！！！！

振り下ろした．．．．．ああ、私は死ぬのか．．．．．短い
人生だったな．．．．．
父様、母様．．．ごめんなさい．．．．．そして、八年前に
会った男の子．．．．．
また話したかった．．．．．

ガキン!!!

?痛みが無い・・・・・・?それに何金属音?

私は、おそろおそろ目を開いた。そこには・・・・・・

???「あれ?また会った・・・・・・」

イカリを細い剣で受け止めていた。

あの、男の子の姿があった・・・・・・

第1話 八年前の亡霊（後書き）

ふゝ、とりあえずここまでです。次回はバトルに入ります……

・

あゝ、緊張するよゝ！！！！でも、頑張ります！！！！

宝玉の使い方や、説明は次回の次を使って話しますので、もう少しお待ちください

では、また次回に会いましょう！！

第2話 八年前の少年（前書き）

今回は、前回言ったとおりにバトルになります。

バトルの描写は上手くないと思いますから、勘弁してください・・・

・

では、どうぞ。

第2話 八年前の少年

ガンサ「てめえは……………」

少年「……………」

あの男の巨大なイカリをあんな細い剣で受け止めた！？あんな武器
見たこともない……………」

普通の剣とは違って刃が片方しかない。でも、綺麗な剣だな……………」

少年「立てるか？」

ルキ「え？」

少年「立てるかと聞いているだけど？」

ルキ「え、ええ。立てるわ」

私を心配してくれているの？もしかして、私を助けに来てくれて……………」

少年「なら、下がって邪魔だから……………」

いたのかな……………？思いつきり邪魔者扱いですか……………
……………でも……………」

ルキ「わ、分かったわ。」

ここは言つとおりにしたほうがいいわね……………

ガンサ「おいおい、なんだよてめえは？あの女のコレか？」

なんて言いながらイカリを立てる……………あ、指が無いからか……………て！？

か、彼女！？い、いや、そんな！！私達出会ってそんなに経っていないのに……………あれ？

でも、会ったのは八年も前だから結構な時間が経っているから、あかの他人という訳ではなくて……………て！？何を言ってるの私！？

少年「違う。」キッパリ

あれ？何か目から塩辛いモノが……………

ガンサ「なんだ、違うのかよ。なら他人だな。なぜ、他人なんか助けるんだ？」

少年「別に……………助けたかったから……………」

ガンサ「おゝ、おゝ……………正義の味方気取りか小僧が？」

少年「この世に正義なんて言葉は無い……………」

ガンサ「あ？ならなんだよ？」

少年「自由なだけだ。」

ガンサ「！？」

あれ、男の顔つきが変わった？

ガンサ「おい……その言葉は誰から聞いた？」

少年「……………」

ガンサ「その言葉はあの時のガキのセリフだ……ぞ……」

！？男の様子がオカシイ！？いきなり殺気が溢れて……

ガンサ「お前は！？あの時のガキじゃねーか！？」

あの時？

ガンサ「八年前に俺の両腕をぶった斬りやがった、あのガキか！
！！」

八年前！？え？じゃあ、あの子は戦争に参加していたの？そんな事を思いながらあの子を見ると……

少年「？」

首をかしげていた……あ、かわいい……じゃなくて
！！！！

憶えてないの！？あんなにインパクトありそうな男を！？

ガンサ「そうか……やつばてめえか……」

よく見ましようね！！あの子、思いつき知らないって顔してるわ

よ！！！何一人で納得してるのよ！！

ガンサ「てめえには恨みもあるけどな、感謝しているぜ……なんせ、てめえが俺の腕ぶった斬ってくれたおかげで、こんなすげえ腕がてにはいったんだからな！！」

あ！？町の兵士たちに飛ばしたイカリが動いて！？

ルキ「危ない！！」 間に合わない！！！！

ガンサ「あはははは！！！！死にな！！！！！！」

ガキン！！！！

ルキ&ガンサ「！！！！」

私がイカリを再び見た時には、イカリが真つ二つに切られていた………すごい………

ガンサ「て、てめえ！！」

男がイカリが残っている片方の腕で攻撃してきた。でも、なぜか安心してた。あの子が負けないとなぜか確信していた………

少年「居合い………」

ガンサ「うおおおお！！！！！！」

少年「彼岸花………」

ガンサ「!？」

ルキ「え？」

何？あの子はさっきまで男の目の前にいたはずなのに、なんで・・・

ガンサ「いつの間に後ろに!！」

男が振り向甲とした時・・・

チン・・・・・・・・あの子が剣を鞘に入れた。とたん・・・・・・・・

ブシャーーーーー!!!

ガンサ「がつ!!!」

・ 男の身体から血が噴き溢れた・・・・・・・・まるで花のように・・・

ルキ「綺麗・・・・・・・・」

そう思っではいけないのだとは分かっている。あれは血で、人から
出ているからだ・・・・・・・・でも、
なぜかそう思わずにはいられなかった・・・・・・・・

ガンサ「く、くそガ・・・キ・・・が・・・・・・・・」

ドサっ!!!!

少年「ガキじゃない、

・・・デイルだ・・・」

デイル、それが私が出会った男の子の名前だった・・・

第2話 八年前の少年（後書き）

とりあずここまでで勘弁して下さい!!!（土下座）

今の自分の限界？だと思えます・・・・・・ほんとです!!

やっと主人公の名前を出せました。あゝスッキリした。

あ、は別にミスした訳ではありません。その意味は結構しないと分からないと思いますので、頭の片隅にでも置いてください・・・・・・

さあ、次回は这个世界で戦いの力をにぎっている宝玉のや世界の説明をいたしたいと思います。しかし、私だけでは皆さんもつまらないと思ひまして、特別ゲストに登場してもらいます。そのゲストとは・・・

????：ウチらやで〜!!

あ、かつてに出てこないでください!!!

????：次回まで暇だからしかたないやん!!

威張らないでください!!

????：2：でも事実・・・・・・

????：3：すまないな、俺では止められなかった・・・・・・

あゝ、気にしないでください・・・・・・僕も半分諦めていますから・

・・・

????3：スマン・・・・・・・・

いいですよ・・・・・・・・では、次回はここにいる四人でおうちにします！！

????：楽しみにしててな～！！！！

????2：・・・・・・・・・・

????：何か喋ろう！？

????3：コイツはアイツ以外の前じゃこうだろう・・・・・・・・・・では、次回で会おう。

大丈夫かな・・・・・・・・・・

影の時間 その巻（前書き）

暇だったので、一日で二話仕上げていこうと思います。

????：おつしゃー!! 出番や!!

まだ前書きですよ!?

????：気にするな!!（親指立てる（効果音付き

も、何でこんな人創ったかなー!!!

????：ギャグ要員やる?

影の時間 その巻

皆さん、こんにちわ。まだ駄目駄目小説家のおはぎ大好きです。

さて、今回はこの小説「宝玉使い」にでてくる宝玉の説明や使い方、またこの世界について話していこうと思います。さて、前回の後書きや今回の前書きにでていましたが、ゲストを紹介します。

まず一人目は・・・・・・・・

????「わゝははははは！！ついにウチの時代がやって来たゝ！
！」

一人目は・・・・・・・・

????「セイジェントがピンチの時に何処からともなく現れる、とても頼れるすごいヤツ！！」

・・・・・・・・・・・・・・・・

????「顔に付けた金色に輝く仮面が語るのは世界の理！！そう
ウチ・・じゃなく我こそはゝ！！」

・・・・・・・・・・・・・・・・（手榴弾片手に持って

????「セイジェントに轟き参った雷の使者！！」ピン（安全
ピンを抜いた

稲妻仮面「稲妻仮面！！ただいま参上おゝ！！！！！！」

ドカーン！！！！

大変見苦しいものを見せました。気を取り直して、二人目〜!!!

蒼氷仮面「蒼氷仮面……………」

……………え〜、三人目どうぞ……………

獄炎仮面「あまり気が進まないが、獄炎仮面だ。よろしく頼む。」

獄炎仮面大好きです……………

獄炎「オレにそっちの趣味は無いぞ」

こっちにもないわ!!!!…え〜、気を取り直していきます。

まず、何でゲストの名前がこうかと言うと、本作品でも出てくる旧・主要キャラだからです。

ネタバレを防ぐ為の工夫ですのであしからず……………では、さっそく本題にいきましょう。最初の議題?は「宝玉」についてですが

稲妻「死ぬか思ってたわ〜!!!!」

ち、復活しやがった……………

稲妻「酷くない!?ウチの扱い酷くない!?ねえ!?!」

獄炎「自業自得だろ。」

蒼氷「同意……………」

稲妻「ウチの見方は読者の皆様だけやゝ!!!!!!」

もう、話が進まないからいくよ、獄炎、蒼氷、ヴォルク。

稲妻「ちよつとゝゝ!!!!!!何名前言ってるんのゝ!!!!!!仮面の意味ないやんかゝ!!!!!!」

では、宝玉についてです。稲妻（無視ですか・・・・・・・・; ;）
宝玉とは球状の形をしていて、それを武器か防具などに付けると効果を発揮するモノです。

稲妻「便利だねゝ。」

獄炎「そうだな。宝玉の効果には色々あるが大きく二つに分類されている。」

蒼氷「基玉と属玉・・・・・・・・」

獄炎「そう。その二つに分けられ、基玉とは

攻・坊・速・伸・飛・回・具・放 の八つがある。」

稲妻「これは一般的に出回っていて、コツさえ分かれば誰にでも仕えるモンや。」

獄炎「そして、属玉だが。これは一般に出回るモノではなく、自然と世界に現れるモノらしい。」

蒼氷「効果は色々・・・・・・・・」

獄炎「その通りだ。これは数がいくつあるかは未だに不明だ。そ

の種類は多種多様で、例えば・・・そうだな・・・火、風、水などは自然の力で白玉と言われている。」

稲妻「他に毒や爆、武なんかは人工的に作られたモンは外玉って言われてんのや。」

蒼氷「他には分類が難しいモノがある……………」

獄炎「ああ。それはオレも見ただこともない。いや、誰も知らない。」

稲妻「噂やと一回きりちゅう話やし。」

蒼氷「百年に一回だけ生まれる……………」

獄炎「まあ、そんな噂が堪えないモンだな。おっと、話が逸れたが白玉は持ち主を選ぶと言う。」

稲妻「そうやな。実際ウチら以外使えんかったしな。」

蒼氷「（コクコク）」

獄炎「そのために基玉とは比べ物にならない程の力を与える。しかし、基玉も使い方次第で強くなれるからな。相性の問題もある。」

蒼氷「でも、強い……………」

稲妻「そうやな。でもって、その力の源は人の心や。」

獄炎「そう。想いが強ければ強いほど力を持つ。これはヤツの戦

いを見て分かった事だな。」

稲妻「そうやな。アイツはたいしたヤツだったな。そして、そのツレのあのガキもな（笑）」

獄炎「ああ、あの二人には色々と教わったな……………」

蒼氷「ポツ……………」

稲妻「あゝ、蒼氷帰ってこい。」

蒼氷「……………」

獄炎「蒼氷はアイツのおかげで生きる意味を持ったのだ。まあ、仕方ないだろう。」

稲妻「そうやな。」

で、宝玉ですが大きさは五百円を球状にした位の大きさです。使い方は武器や防具、そして道具に穴を開けてそこにはめればいいのです。

稲妻「おお！！いたんか作者……………」

いたよ！！最初からいたからね！！

獄炎「スマン。忘れていた……………」

あ、いいよ　　楽できたもん

稲妻「あんた最低や！！！」

なんとも言う方がいいわ！！

獄炎「穴を開けて付けるのだが、最初から宝玉が付いている武器なども売られている。あまり多くはないがな。」

稲妻「そつやな。で、基玉の効果についてやけど……………」

攻は攻撃力、破壊力が上がります。坊は防御力や、硬さも上がります。速はスピードが上がります。

伸ですが、これは伸びて長さが変わります。回は回復で、傷を癒します。

獄炎「だが、回の玉は人を慈しむ心が強ければ強いほど、力を発揮して病氣も治せるようになる。」

稲妻「やけど、そこまでできるヤツは世界に五人ほどもいないんや。」

蒼氷「でも、私達の仲間にはいた……………」

それ、ネタバレに繋がりますよ蒼氷……………」

稲妻「お約束や。」

獄炎「効果の説明の続きだが、飛はモノを飛ばす事が出来る。まあ、言い換えれば操れる事が出来るので、操の玉とも言われる。」

前回で出てきたしね。具は具現化で、宝玉に使う心のエネルギーを

形にする事ができます。一般に矢に具現化しますね。

稲妻「最後の放やけど、これは放出でエネルギーをそのまま飛ばせるねん。」

獄炎「放出し続けるのはきついかな。」

ふう、まあこんなもんでしょう。世界観はまた次にっと言う事で・・・

稲妻「また説明しないといかなくなったら。ウチをよぶんやで」
キラーン」

もう呼びたくない・・・・・・・・・・

獄炎「まあ、また呼んでくれ。中々楽しかったぞ。」

もちろん！！ 稲妻「ひどい！！！」

蒼氷「また・・・・・・・・・・」

え、ええ、またです。（からみづらい

では、長々と語ってしまつてすみません。最後まで見てくれた人に感謝の言葉を贈ります。

せーの、

「「「ありがとうー！！！！！！！！！！」」」

影の時間 その巻（後書き）

あゝ、疲れました……。一気に書きました。

本当に長々とかいたので、読んでくれて人ありがとうございます。

ここで、キャラの容姿についてですがすべてティーズから取りました。

ディル：TODからリオン君の少し背を小さくした版

ルキ：TOLのクロエの髪が青色版で貴族のお嬢様っぽく

稲妻仮面もといヴォルク：TOSのゼロスで髪が黄色版性格はMARのナナシ的

蒼氷仮面：TOAのティアで、片目が隠れてなく髪の色は白

獄炎仮面：TOVのレイヴンのシュバーン版で髪が赤

こんな感じです。分からない方は調べて見てください。ティールです。

では、今回はここまでとします。

See you next time

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8346/>

宝玉!(ほうぎょく)使い

2010年10月10日02時38分発行